～妖怪を生かした文化・観光まちづくりをめざして～

もののけだより

vol.6 平成30年11月

2019年4月26日オープン（予定）湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）プレオープンイベント「スペイン展凱旋　妖怪コレクション展」開催しました！

10月27日（土）から11月4日（日）にかけて、広島三次ワイナリーで「スペイン展凱旋　妖怪コレクション展」を開催しました。この展覧会は、「湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）」の来春開館に向けたプレオープンイベントとして行ったものです。

本展では、日本とスペインの外交関係樹立150周年記念行事としてスペインのマドリードで開催された展覧会に出展した三次市所蔵のコレクションを中心に展示しました。絵巻や錦絵、着物、根付、焼き物など妖怪をモチーフとしたコレクション70点とともに、スペイン展の様子を写真や映像で紹介しました。

開会セレモニーでのテープカット

内覧会の様子

来場者の声

◆40代女性
保存状態がとても良く、江戸時代からカラフルな色を使っていたことがわかり感心した。博物館がオープンしたらぜひ行ってみたい。

◆50代女性
妖怪大好き！絵巻物が美しい。

◆60代男性
面白い世界観でびっくりした。興味深い。

スペイン展とは？

平成30年7月17日（火）から9月23日（日）にかけて、スペインの首都マドリードの王立サン・フェルナンド美術アカデミーで開催された。展覧会名は「妖怪：想像のイコノグラフィー　日本の超自然的イメージの起源としての百鬼夜行」展で、主催は王立サン・フェルナンド美術アカデミーと国際交流基金。期間中、約14,000人が来場した。三次市所蔵の妖怪資料のみで構成され、錦絵、着物、帯、根付、印籠、武具、焼き物など83点を学術的な解説とともに展示した。

湯本豪一記念　日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）誕生記念イベント 三次市×浅草妖怪ハロウヰン　開催！

10月13日（土）・14日（日）に、まるごとにっぽん（東京都台東区浅草）で「三次市×浅草妖怪ハロウヰン」が開催されました。このイベントは、「湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）」の平成31年4月26日開館を記念して行われたもので、物産展や妖怪ワークショップ、スタンプラリーなど楽しい催しが盛りだくさん、多くの方にご来場いただきました。妖怪たちのパフォーマンス等で会場は大変にぎわいました。

湯本豪一さんを囲む、妖怪仮装グループ「百器爽」と「東京妖かし団左組」の皆さん。妖怪博物館の心強い応援団としてイベントをしっかり盛り上げてくださいました。

三次市地域おこし協力隊の竹設さんによる「妖怪風メイクアップ」

湯本豪一さんのトークイベント「三次の妖怪博物館にぜひ来てください！」

妖怪たちのパフォーマンスに外国人観光客も興味津々。

「狐面絵付け」ワークショップ　どんなお面ができるかな？

妖怪たちも三次の妖怪博物館開館をPR！

にぎわう物産展　妖怪博物館オープンをしっかりPR！

「怪奏姉妹」の演奏で、華やかにイベントを締めくくりました。

三次もののけメールマガジン　会員募集中！

妖怪博物館の開館に向けて、「もののけ（妖怪）」や当博物館に興味・関心がある方などを対象に、関連情報を提供するメールマガジンの配信を行います。
ご希望の方は、右のQRコードを読み込み、必要事項を登録してください。
登録手続きのための確認メールが届きますので、受信設定をしている場合は、ドメイン「@y.bmd.jp」を受信設定してください。

【問い合わせ】
広島県三次市政策部　三次地区拠点施設開設準備担当
TEL：0824-62-6158　FAX：0824-62-6137

平成31年4月26日オープン（予定）
湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）

地域の取り組みを紹介します！

三次地区の文化・観光まちづくりを進める会

三次地区の文化･観光まちづくりを進める会は､平成29年7月に結成されました。多くの人が三次地区を訪れ、交流を活発化し、三次地区の歴史や伝統の上に、新たな取り組みやまちづくりを進めることをめざしています。現在約 50 人の会員が5つのプロジェクトにわかれ、話し合いにより取り組むことを決めて、それぞれの人ができる範囲で活動をしています。

５つのプロジェクト	活動内容・方向
“景観・美観”	■比熊山登山遊歩道の整備 ■比熊山の整備（景観の確保・案内板の整備など）
“回遊性の向上”	■回遊性スポットの抽出 ■マップ・デジタルマップ・説明板などの作成、配布
“歴史・文化・芸術の保全・伝承”	■三次人形・古絵図・古写真などの展示 ■展示施設としての「まちなかギャラリー」の確保 ■既存施設の活用
“きんさい”	■「まちのユニフォーム」制作プロジェクト
“情報収集・発信”	■会員相互間の情報交換の仕組み構築 ■情報発信の仕組み構築（他地域の PR も入れる）

《稲生物怪録》ゆかりの地
比熊山登山道の整備作業の様子

≪稲生物怪録≫には、主人公の稲生平太郎が比熊山に登る場面が登場します。

冬を越した比熊山の登山道は、落葉が厚く積もり、倒木が道をふさいでいます。今年の春は、２回にわたって落葉を掻き出したり、倒木の処理を行いました。今後も道標の設置などできることを進めながら、山からの展望の確保など、関係機関に働きかけながら取り組んでいきます。

会員募集中　参加をお待ちしております。

三次地区の文化・観光まちづくりを進める会は、三次地区の皆さんを中心に結成されていますが、地区外の方の参加も大歓迎です。随時ご参加を受け付けています。

【問い合わせ先】
（一社）みよし観光まちづくり機構　☎0824-62-6150

君田あったかむら〈かかしまつり〉で《稲生物怪録》のかかしが展示されました
君田町東入君分館の皆さんの取り組みを紹介します！

君田町東入君分館の皆さんからのメッセージ

「君田町東入君分館」は、東入君地区の運営委員でつくっている団体です。とんどや納涼祭などの行事に携わっており、かかしまつりにも毎年参加しています。今回は、来年 4 月 26 日開館予定の日本妖怪博物館にちなんで、《稲生物怪録》をテーマとしたかかしづくりに取り組みました。20 代から 80 代のメンバーで、毎夜 8 時から 10 時までの 2 時間、11 日間をかけてつくりあげました。皆で話し合いながら、様々な手法をこらして仕上げた作品です。

来春オープンの妖怪博物館に多くの方にお越しいただきたいという願いをこめてつくりました。かかしづくりで妖怪博物館の機運を高めることができればうれしいです。

※かかしまつりは11月10日(土)までです。

稲生平太郎をはじめ、戸口をふさぐ老婆や一つ目小僧、つづらが化けたひきがえるの怪など7体の妖怪を再現！
《稲生物怪録》の世界をあますところなく表現した力作です！

怪談朗読公演「百物語の館」IN 広島三次に行ってきました。

9月 16日（日）に､三次グランドホテルで､怪談朗読公演「百物語の館」IN 広島三次が開催されました。この公演は、来春開館予定の日本妖怪博物館を応援する機運を盛り上げようと三次商工会議所が企画されたものです。主催は、三次商工会議所と京都精華大学人文学部堤邦彦研究室で、約 100 人の来場がありました。

「百物語の館」とは､京都精華大学人文学部の堤邦彦先生が主宰する怪談朗読団体･･･イベント名です。「百物語」とは、月のない夜に人が集まり百筋の灯心を一話終わるごとに消していき、最後の明かりが消えた中で怪異が起こるのを待つ、というものです。≪稲生物怪録≫にも、主人公の稲生平太郎が隣に住む三井権八と「百物語」をする場面が登場します。怪談朗読団体「百物語の館」は、古典を中心に日本全国のあらゆる怪談作品を研究し、朗読を通して怪しくも美しい日本怪談の魅力を届ける活動を続けています。

主宰者で怪談研究者の堤先生に、朗読公演を始めたきっかけや、怪談の魅力、三次の≪稲生物怪録≫について伺いました。

Q１　怪談公演を始めたきっかけを教えてください。

A 平成 23 年から授業の一環として始めました。江戸怪談の古典を読み、それを現代の言葉に訳して台本をつくり自分で読むという一連のプロセスを体験してもらうという内容です。当初は、京都国際まんがミュージアムや古い小学校で実演しました。現在、その授業はなくなりましたが、今もＯＢを含め、12～13 人で活動を続けています。

主宰者　堤　邦彦先生

Q２　活動内容を教えてください。

A 年に５、６回、朗読公演を行っています。小規模なものも含めると、これまで約70回ほど公演しました。会場はお寺や、地元の小学校などが多いです。

Q３　怪談の魅力とは何ですか？

A 怪談には、河童などオーソドックスな妖怪は出てきませんが、人が化けて出てくるといった人間の業を伝える話が多いですね。怪談が怖いのは、普段、他人に見せない人間の欲望や感情が渦巻いているからでしょう。人間の本質を鋭くつくものが多いです。他人に見せたくない部分、身近な人間のダークネスが描かれていることに意味があると思います。海外でも「妖怪」や「怪談」は人気ですよ。特にフランス人は怪談好きで、怪談研究会があったりします。

Q４　怪談を聴いた皆さんの反応はどうですか？

A 小学生は、怖がりながらも楽しそうに聴いてくれますね。老人会で公演したときは、笑う箇所が小学生と同じだなと感じました。怪談は、恋愛をテーマにした、ある意味、人間の内面をえぐるような話もあります。そういう内容は 30、40 代の女性の反応が良かったりします。50、60 代の男性のなかには、怪談を研究対象とされている方も見受けます。

代表　三輪（みわ）　涼（りょう）さん
朗読公演は面白く、やりがいのある芸術活動です。

Q５　《稲生物怪録》にも「百物語」の場面が登場します。三次で誕生した《稲生物怪録》についてどう思われますか？

A 実在の人物が登場するというのは、物語に大きなリアリティを与えています。つくりものではない郷土怪談といえるでしょう。なぜ、三次にこのような話が生まれたのかを考えることには大きな意義があります。そうすることで、三次という地域の文化や色合いが見えてくると思います。

怪しき世界へようこそ　～「百物語の館」リポート ～

薄暗がりのステージに、６人の語り手が順に登壇し、源頼光たちが大江山で鬼の酒呑童子（しゅてんどうじ）を退治する「大江山の鬼」や、女の幽霊が自分を裏切った夫と妹に復讐する「おみつの怨霊」など、京都に伝わる６つの怪談を披露しました。

◀終了後、会場は大きな拍手に包まれました。

気迫に満ちた熱演に会場は静まり、来場者は固唾に聴き入ります。▶

《百物語の作法》
1人一話ずつ怪談を語り終える度に、ろうそくの火を消していきます…。